

大草谷津田いきものの里 自然観察会

アカガエルの卵はあるかな？

遠藤登志子(千葉市)

日 時：2018年2月18日(日)10時30分～12時 天気：晴れ

参加者：大人20名、子ども18名 計38名

担当指導員：芳我めぐみ 遠藤登志子

下見での田んぼには薄氷が張っていた。集合場所も冷たい風が吹きつける寒い日だったが、カエルのタイトルに惹かれて来たという子どもも何人もいて、多数の参加になった。いきものの里についての話、注意事項とともに、霜の畦道はすべて危険なうえに、大勢で入ると畦が壊れることもあるので、今回は入らないことを話す。

途中でアカガエルとその生態や、大草にいるほかの3種のカエルのことを写真とともに説明し、卵塊が観察路からよく見える田んぼに進む。卵塊を初めて見た男性は、塊が1個の卵かと質問された。近くに見本として用意した卵塊を間近に見て、卵の塊だと理解できたようだ。さらに虫メガネや観察カップを使い、一粒の卵を見ると、卵のまわりの寒天質状の層が黒っぽい小さい卵を守っているのがよくわかる。



次に、大草での卵塊調査の年別のグラフを見て、年ごとのばらつきはあるものの、アカガエルの住める環境（冬眠の場所、産卵の場所、餌のある場所、吸盤がないアカガエルの移動できる場所）などがあればアカガエルは絶滅しないはずだと話す。続いて、普通の田んぼの環境を考えてもらう。いきものの里の田んぼの写真と若葉区の冬の田んぼの写真を並べると、子どもたちが、田んぼに水がないこと・コンクリートの水路だと違いをみつけた。大草のような環境はアカガエルにとって、貴重な場所だと話す。

時間があつたので、カエルの吸水方法や、オタマジャクシのシッポクイズ、餌を飲み込むのは、目をつぶり、目玉で餌を押し込むようにして胃の中に入れるなどの話を絵本の写真で紹介。大草で、一番早く咲くタチツボスミレを見て解散した。

